



毎月20日は ペットフードの日

夏場に、ペットフードをしっかりと食べてもらう方法

皮膚を被毛で覆われているペットは、気温の高い夏場を過ごした後、人と同じように『夏バテ』のような状態になることがあります。家族が、様々な工夫をして、夏場に弱いペットも暮らしやすく、快適で健康な食事が摂れるように工夫と対策をとってあげることが重要です。冬を過ごす冬毛に生え変わる時期を良い体調で迎えられたいようにしたいものです。

気温の高い夏のペットフードの与え方の工夫

気温が高い夏には、特に水分量の少ないドライフードの食いつきがわるくなる場合があります。そんな時は、犬なら少々水分を加えて与えるのも1つの方法です。水やぬるま湯を加えるのも1つの方法ですが、それでも食べてくれないときは、お肉などでとったスープから、油分を除いたものをかけて与えると、よく食べる場合もあります。猫の場合には、少量の水分を含んだドライフードを食べてくれない場合が多いようです。そのような場合は、少量のかつお節などをまぶしてあげると良く食べてくれることがあります。そのような工夫をしてあげても、食べてくれない場合には、缶詰やレトルトを与えることも良いですが、栄養バランスの整ったドライフードなどの「総合栄養食」ができるだけ食事の主体になるように工夫をしてあげてください。

ウェットフード（缶詰・レトルト）を与える時に気を付けること

水分含有量の多い、柔らかく食べやすいウェットフードを、食欲の落ちる夏場に与えることも1つの方法ですが、気を付けたいことがあります。ウェットフードは、ペットが食べるスピードが速くなります。与える量が少ないように感じられますが、肥満を防ぐためにも適量を守って与えることをお勧めします。また、主食として与える場合は、「総合栄養食」と記載してあるウェットやセミモイストフードを選ぶ、もしくは「間食その他目的食」の場合は、「総合栄養食」と併用し、栄養バランスに注意することをお勧めします。

与える量が
少なく感じてても
！適量！！



ペットフード/ペットマナー検定公式テキストより